

2025年度 第1回 入学試験問題

国 語 （50分）

解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

一 次の——線のカタカナ部分を漢字に直しなさい。

1 全権をユダねる。

2 アマダれを聞く。

3 神社にサンパイする。

4 時間外キンム。

5 雪がふる。

6 イバラの道。

7 時計のビョウシン。

8 マドベに立つ。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(句読点や記号も一字と数えます。)

人間は比較ひかくせずにはいられない生き物です。足の速さや、模試の成績や、餃子ぎょう子の売上げや、住みたい街など、とにかくランキングを作りました。そして、自分が上位を占めることができれば、それなりに嬉うれしく、誇ほこらしく思い、身近な人物が自分より上位を占めれば、素直すなおにすごいなあと感じする一方、うらやんだり、やかみを覚えたりします。

人と比べると、比較なんてしない方がいい、というアドバイスほど、言うのは簡単だがするのが難しいことではないでしょう。比較をするなどとは言いません。あるいは、それは言うだけ無駄むだですので、これから、比較に関連する区別を導入して、①みなさんの思考を上書きします。

それは、「記述のランキング／優劣ゆうれつのランキング／存在のランキング」というランキングの区別です。私たちはいつでも自分と他人とを比較してしまうわけですが、この区別を心にとどめておくだけで、比較が生み出す嫌いやなところを少しでも避さけられるようになると思います。この節では、「記述のランキング」と「優劣のランキング」を紹介しょうかいして、次の節で「存在のランキング」を導入します。《A》

私たちが人を比べることができるのは、そもそも世の中には、ひとりとしてまったくXという人間がいらないからです。身長、体重、手足の長さ、髪かみの毛や目の色、耳や指先の形、視力や走力、好きな食べ物、生まれて初めて観た映画、涙なみだを流した

小説、夕立で濡れたときに一番好きな匂いがする地面の素材と、いくらでも異なる観点から人々を区別することができます。一卵性の双子でも、しばらく近くにいると、見た目も性格も話し方も、二人がまったく違うことにすぐ気づきます。遺伝子が同じ程度では、同じ人物になれないのです。《B》

人間同士には違いがあるため、何らかの観点から人に値を割り振って、順番に並べることが出来ます。これがランキングです。たとえば、クラスメート全員の身長を測り、低い方から高い方へ、「背の順」で並んでもらうことが出来ます。《C》

それぞれの人が特定の身長を持っている、そしてそれらの身長の値を比較できる、というのは単なる事実です。単なる事実を記して、述べる方法のひとつなので、身長のランキングは「記述」のランキングです。期末テストの成績や、八〇〇メートル走のタイムや、さくらんぼの種を口から飛ばせる距離など、これらはすべて単なる事実ですので、これらの値にもとづいて記述のランキングを作成することが出来ます。《D》

「単なる事実」と強調しているのは、私たちはこれら記述のランキングをすぐに「良し悪し」や「優劣」のランキングと混同してしまうからです。《E》

単なる事実と価値が異なる、あるいは、事実の記述と、^②価値の判断が異なるというのは、哲学・倫理学における基本の発想です。「Gさんの身長は一七〇センチだ」は単なる記述ですが、「Gさんの身長は一七〇センチあった方がいい」と良し悪しの要素を加えるのが価値判断です。

ほとんどの事実の良し悪しは、そのときどきの状況や目的によって変化します。良し悪しは「Y」なのです。たとえば、身長は高い方が良く、と思われるかもしれませんが、そうとは限りません。競馬の騎手やボートレーサーになりたい人たちにとっては、あまり身長が高いと体重の調整が難しく、不利になりますので、むしろ低い方が良くかもしれません。身長自体に良し悪しが含まれているわけではなく、私たちがそこに何らかの意義を見つけて、身長の違いを優劣として解釈するのです。期末テストの成績も、高い方が良くい場合があれば、そうでない場合もあるでしょう。医師になることを目標としている人と、パン職人になることを目標としている人では、成績をどう評価するかがまったく違っていいはずですよ。

これまでの議論をまとめると、記述のランキングは単なる事実関係に過ぎませんが、そこになんらかの価値を加えると、優劣のランキングが重なるって見えます。記述のランキングは事実にもとづいているので、誰にでも共通するものですが、優劣のランキングは、それぞれの人の価値観や目標によって異なりますので、どこでも一律に同じではありません。しかし私たちはすぐに、いつでもどこでも、背の高い方が良い、足は長い方が良い、目は大きい方が良い、偏差値は高い方が良い、給料は高い方が良い、などと思ってしまう。状況次第ではそうではない、そして自分自身がそうではないかもしれないのです。

順位をつけたり、競争したりしない方がよい、などとは言っていません。競技も「Z」も大歓迎です。同じ評価軸で素晴ら

しい結果を出す人が誉められる、賞賛されることも大事です。重要なのは、すごい人だから「評価する」とこと、同じ人間だから「尊重する」ことの区別です。これから見ていくように、すごい人だろうがすごい人だろうが、人間として同じように尊重されるべきだからです。

(和泉悠『悪口ってなんだろう』筑摩書房より)

問一 ――線①「みなさんの思考を上書きします」とありますが、「上書き」するとは、どういうことですか。最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア、一つの視点にしばられることなく、多様な視点を持つこと。

イ、目上の人からの意見を聞くことで、自分の意見をなくすこと。

ウ、新しい考えを知ること、それまでの考えを改めること。

エ、上級者の真似をして、初心者が自分のふるまいを変えること。

問二 空らん X に入る言葉をこれより後の文章中から一語で探し、抜き出して答えなさい。

問三 次の文は文章中から抜き出したものです。この文を入れるのに最もふさわしい場所を《A》《E》の中から選び、記号で答えなさい。

そう、なぜかランキングにすぐ価値を読み込んでしまうのです。

問四 ――線②「価値の判断」とありますが、次のア～オの中から「価値の判断」にあたるものを三つ選び、記号で答えなさい。

ア、A君は目鼻立ちが整っていてかっこいい。
イ、Bさんはもつと勉強時間を増やした方が良い。
ウ、動物の中で最も大きいのはシロナガスクジラだ。
エ、今年の夏は猛暑日^{もうしょび}が二十日間あった。
オ、コンクールで優勝できなかったのは残念だ。

問五 空らん Y に入る最もふさわしい言葉を次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア、流れもの イ、別もの ウ、たまもの エ、水もの

問六 空らん Z に入る最もふさわしい言葉を次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア、呉越同舟^{こえつどうしゅう} イ、切磋琢磨^{せつさたくま} ウ、千差万別^{せんさばんべつ} エ、他力本願

問七 線「比較が生み出す嫌なところ」とはどのようなところですか。文章全体を読み、筆者の主張をふまえた上で、次の文の空らん^くに当てはまる十七字の言葉を文章中から探し、抜き出して答えなさい。

比較した後の結果に価値の判断を加えると、**相手が誰であつても**（
という考え方ができなくなるところ。

問八 本文の内容をふまえて、後の設問に答えなさい。

あるクラス全員で生徒の通学時間の長さを比べたら、学校まで電車を乗りかえて二時間かかるA君は最下位だとわかり残念がっていた。「記述のランキング」と「優劣のランキング」の両方の考え方を使ってA君を上げますとしたら、あなたはどのように説明しますか。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(句読点や記号も一字と数えます。)

三月に閉校の決まっていた私立萌木女学園大学では、卒業が保留となった学生の救済のために特別補講を行うこととなった。十名ほどの学生が寮に入り共同生活を送っていて、「朝子」と「夕美」はこの寮のルームメートである。この日、校内を散策中「夕美」が倒れ、校医の「湯本先生」がヨボヨボとやってきた。

「すみませーん、ちよつとこけちゃつて。大丈夫でーす」

夕美ちゃんは立ち上がり、スカートのすそをパタパタ叩いた。細かい落ち葉や土汚れがついてしまっている。私は彼女の後ろに回り、**A** 髪や背中の中のゴミを払い落としてやった。振り向いて「ありがとー」と笑う様子は、本当になんでもなさそうに見える。

「湯本先生が車椅子使った方がいんじゃないですかー」なんてにこにこ笑いながら言っているのを見て、釈然としないものはあったけれど、取り敢えずほっとしていた。

けれどその翌日に、夕美ちゃんはまた倒れた。

その時は私たちの部屋で、ふたりきりだった。それまでにくらか打ち解けていた私たちは、何かしきもないことでケラケラ笑っていた。すると、いきなり **B** 床に崩れてしまった。

「え、ちよつと」

慌てて駆け寄ると、相手はにこつと笑って、「あー、何か力抜けちゃった……」と暢気に言っている。私まで脱力し、床に **C** 座り込む。

「いや、それ、絶対どこかおかしいから。病院行った方がいいから」

「病院ならだいぶ行ったよ、あっちこち」

「え？」

「なんかね、ナルコレプシーって病気なんだって」床の上で体育座りをして、暢気そのものの口調で言う。思わず床に両手をついた。

「たまーにね、今みたいに力が抜けちゃうの」

「何それ、危ないじゃん。^①こないだのもそうだったの？ 超危ないじゃん。あんな B 倒れてさ、もし地面に尖った石とか枝とかあったら、大怪我するじゃん。顔とか……眼とか……」

考えただけでも恐ろしい。

「心配させてごめんね。^②倒れる方は最近ずっとなかったから、ちよつと油断してた」相変わらずにこにこ笑いながら、夕美ちゃんは言う。「あのね、あんまり感情を揺らしちゃいけないらしくてね、気をつけてはいたんだけど、こないだのいきなりの工事の音はびっくりしたなあ。やられたわ」

「何それ、どういう仕組みなの？」

「私にもよくわかんない」あつけらかんと夕美ちゃんは言う。「まだ、今イチよくわかっていない病気なのよね。なぜか日本人にはわりと多いらしいんだけど。いきなり脱力しちゃうのは、カタプレキシーって言って、すぐに元どおりになるんだけど、メインの症状は睡眠発作でね、とにかくいきなり寝ちゃうの。電車に乗ってもね、倒れると危ないからなるべく座るようにしているんだけど、気がついたら終点、なんてザラよ。山手線なんか、何周したんだか、わかんなくなる。一人で遠出なんて、危なくてできないよ。学校でもね、体育の最中でも寝ちゃうくらいだから、授業中だろうが、試験中だろうがおかまいなし。だからさー、入試とか、落ちまくったよー。うちの学校の時だけは、何とか解答欄を埋めた後で寝たから、ギリセーフだったけど、ほんと危ないとこだったわ」

ああ良かった良かったと言っている。良かったじゃないよ、ほとんどアウトだよと思うけど、そう突っ込める空気でもなければ立場でもない。

「……それは……大変だったね」

他に言い方がなくてそうつぶやくと、夕美ちゃんはぱたぱた手を振った。

「やだ、そんな深刻になることないよー、別に命に関わるわけじゃなし」そう言うってから、ふと視線を落とす。「……たださ、こんなじゃどうせまともに就職もできないじゃない？ だから卒業できなくてもいいかなあって思ってたの。いいってか、仕方ないなって。家でできる仕事を模索するしかないかもって思っ、それなら、別に大学卒業する必要ないじゃない？」

胸の内側が、ヒリヒリ痛んだ。

——こんなじゃどうせまともに就職もできない。

それは、今の私が身に沁みて思っていることだった。

百パーセント X 業 Y 得ただけれど。朝、きちっと定時に起きることなんて、社会人にとっては当たり前、それができないなんて

論外だ。

遅刻魔は、色んな物を無くす。信用とか友達とか大学の単位とか。だから将来の夢さえ無くす。いつも慌てていて、時間もない。余裕もない。だから身だしなみもどどん適当になっていき、女の子としての自信もないから、彼氏を作ろうなんて気も無くす。

どうしてこんなに駄目なんだろうと、ため息がでる。他の多くの人たちが普通にできることが、どうして私にはできないのだろうと。

不意な女子大生をやっていた四年分、私の中には劣等感とか自己嫌悪だとかが、排水管のヘドロみたいにこびりついていて。もうほとんど詰まりかけていて、汚水が逆流する寸前みたいなものだ。

それが、夕美ちゃんと出会って少しだけ気が楽になっていた。ああ、ここにも似たような人がいた。私と同じだあとと思って、少し慰められていた。
③とんでもなかった。

ひたすら低レベルなことばかり考えていた自分が恥ずかしかった。夕美ちゃんにはちゃんとした事情があった。それもけっこう深刻な……単なる怠け者の私なんかとは、
④似て非なるものだった。まさしく D だよ……。
自嘲的にそう思った時、夕美ちゃんが言った。

「私たちって、似てるよね」

「どこが」

よりもよつてと、反射的に強い口調で返してしまった。

「だって」と夕美ちゃんはほんわか笑う。

「どっちも困ったねぼすけさんだもん。理事長先生が毎朝言ってるよ。お早う、困った眠り姫さんたちって。私たち、だからセツトにされたんだね」

朝、いつも半分方、いや八割以上は眠っている私は、
⑤そのセリフを聞いたことがない。

私は全然、姫なんて呼ばれるに相応しい人間じゃない。それがびったりなのは、夕美ちゃんだけだ。

この人はどうして、こんなにもあっけらかんとしているのだろうか？

ふいに、わけのわからないぐちゃぐちゃした感情がこみあげてくる。

「……卒業できなくてもいいって思ってたのに、どうしてここに来たの？ それに……病気のことで、嫌な思いたくさんしてるでしょ？ どうしていつもそんなにニコニコしてられるの？ いつ倒れるかもわからないのに、どうして平気で歩き回れる

の？ どうして……」

気がつく、なんだか責めるような口調でたて続けにそう尋ねていた。これじゃまるで尋問だ。相手は特に気を悪くした風でもなく、「おおっと」と笑う。

「いきなりの質問ラッシュ。嬉しいなあ……やっとな私に興味持ってくれた？」

「……え？」

「だって何にも、聞かなかったでしょう？ あのね、私ね、ずっと前から朝子ちゃんのこと、知ってたよ。教室とか、食堂とかで見かけて、いつも『どうして』って思ってたよ。今、聞いてもいい？ 朝子ちゃんはどうして、いつもそんなに哀しそうな顔をしているの？」

虚を衝かれて、しばらく黙り込んでしまった。

「……私、哀しそう？」

うん、と夕美ちゃんはうなずく。

「それにね、こないだお散歩で私が倒れた時も、さっきちょっと倒れた時もね、朝子ちゃん、泣きそうな顔してた。びっくり、とか、心配、とかじゃなくて、とにかく今にも泣きそうだったの」

どうして？ と小首を傾げるように聞いてくる。その瞬間、ぼろりと涙がこぼれた。

なぜ私は泣いている？ どうして？ どうして？

どうして、私は夕美ちゃんが倒れたとき、オロオロと泣きそうになるの？ 哀しくて、怖くて、たまらなくなったの？

目の前で人が倒れたら、怖いのは普通だ。心配するの。だけど、こんなにも哀しくなるのはどうして？

答えは、自分で知っている。

その理由は、古い古い記憶にあった。思い出したくもない、⑥辛くて哀しくて嫌な記憶。

今でもよく、夢に見る。悪夢の種。

「……おばあちゃんがね、倒れたの」
幼稚園の頃の話だ。

一緒に暮らしていた祖母と、二人きりで留守番していたときのこと。

『おばあちゃん、肩が痛いよ……歳ね……』なんていう祖母の肩を、一生懸命揉んであげたことを覚えている。幼い子どもの力では、ほとんど意味はなかったろうけれど、祖母はにこにこ笑って『ああ、気持ちいい』と喜んでくれた。けれど時々、胸のあたりを押さえては、顔をしかめていた。

⑦ この二つのことは、兆候だったのだ……後から思えば、だけど。悪いことの兆しは、なんでもない当たり前のような顔をして、日常の中に紛れ潜んでいる。

二人でソファに坐り、私のお気に入りだったアニメ映画を見ていた。すると祖母はなぜかふいに立ち上がり、ふらふらと数歩歩いた。

『おばあちゃん、見えないよ』

祖母の身体で視界をふさがれた私は、そう文句を言った。

返事は、なかった。

どさりと床に倒れ込んでしまったのだ。

驚いて覗き込んだ祖母は、とても怖い顔をしていた。おそらく、酷い痛みと苦しみのために。

それも、後から思ったことだ。私の記憶は、ここでいったん途切れている。

次の場面は、お通夜の席だった。当時の私には、皆が黒い服を着ている意味も、正面にある祖母の笑った顔の写真の意味も、わかっていなかった。ただ、重苦しい空気に、不安で押し潰されそうだった。

叔母が泣きながら母をなじっていた。

『自分の子でしょ？ どうしてお母さんに押しつけて、遊びに行ったりしたのよ』

『おいよせよ、晴美。オフクロが言ったんだぞ、親友の結婚式なら絶対出席するべきだ、朝子見といてやるから行ってこいって』

『そんなの、お母さんが氣を使ったのよ。子供が小さいのだから遠慮するべきだわ。もし家にいてくれてたら、お母さんは……』

『よせってば』

父は一応止めてはいるものの、声に力はなく、そして叔母は止まらなかった。

『だってそうでしょ？ お母さんが倒れてすぐ、救急車が呼べたら、お母さん、助かってたんじゃないの？ 朝子ちゃんも朝子ちゃんよ。どうしてお母さんを見殺しにするような真似ができたわけ？』

『幼稚園児相手に何を言ってるんだ』

父の声は少し強くなる。けれどそれに続く叔母の声は、もっと強く大きかった。

『うちの子なら、近所に助けを呼びに行くくらいできたわ。信じられない。倒れたお母さんの横で、ぐうぐう寝てただだなんて！』

その言葉は、私を強く打ちのめした。

私のせい？

私のせいで、おばあちゃんはいなくなってしまったの？

絶望と恐怖で、世界が真っ黒になったことを覚えている。逆に言えば、そこまでしか記憶していない。

その時私は、芋虫みたいに丸まって、そのまま眠ってしまったらしいのだ。気がついたときには家に帰る車の中で、両親がぼそぼそ会話しているのを目をつぶったまま聞いていた。

『可哀相に、こんな小さい子供を追い詰めるなんて。大好きなおばあちゃんが亡くなつて、哀しいのはこの子だって同じなのに。きつと夜も寝られないくらい、苦しんでいたんだわ。いくらなんでも酷すぎるじゃないの』

母が憤慨したように言い、父が、『まあ、あいつもいきなり母親を亡くして、動転していたんだよ。許してやってくれや』となだめるように言っていた。

——あれ以来、晴美叔母さんとはとても苦手だ。その後、普通に優しくしてもらっていたにもかかわらず。

親戚の集まりで、特に法事やお葬式で叔母さんに会うたび、当時のことを思い出してしまうから。

そして大学に入つて、気づいたことがある。

私は、嫌なことから逃げるんだ。まるでシャツターを下ろすみたいにすべてを拒絶して、眠りの世界へと逃げ込んでしまうんだ。

朝、起きられないのはきつと、本当に行きたい大学に行けなかった現実が耐えられないから。

私はとても卑怯で後ろ向きな逃亡者なんだ。

「——だから私は、自分の事が大嫌いなもの。哀しい顔に見えるんだとしたら、きつとそのせい……」

そう話を締め括りかけて、どきりとした。

夕美ちゃんが、泣いていた。大きな眼にいつぱい涙を溜めて。

その濡れた瞳がふいに泳ぐように揺れ、あつと思う。

今度は、間に合った。膝が触れ合うような距離で、二人とも床に座っていたから。ふにやりと脱力した夕美ちゃんの身体を、そつと抱き留める。

「あー、また、力が抜けちゃった」

私の腕の中で、夕美ちゃんはふわあつと笑った。

「あのね、朝子ちゃん。私、平気じゃないよ」

いきなり言われて反応が追いつけずにいると、相手はまた笑って言葉を足してくれた。

「どうして平気で歩き回れるのかって、さっき言ってたでしょ？ 私、平気じゃないよ。色んなことが怖いよ。どうしてここに

来たかって言ったでしょ？ それはね、怖かったから。学生じゃなくて、社会人でもなくて、他の何でもない……そういう状態になってしまふのが、怖かったの。この先、どうなっちゃうんだろうって。たぶんみんなも、多かれ少なかれ、そうなんじゃないのかな？」

「……うん、そうだね」

私だってそうだ。世間一般的にも、たぶん多くの人がそう思うだろう。

何にもなれない。何者でもない。将来どころか、明日明後日のことですら、おぼつかない。

そんな状態になるのは、とても怖いことだ。

だから与えられた猶予期間に飛びついた。⑨刑の執行を、少しでも引き延ばすために。

「……それとね、どうしていつもニコニコしているかって話。あのね、私、感情を揺らしちゃ駄目でしょ？ だからね、感情を楽しい感じで一定に保つようにがんばっているの。だってその方が楽しいでしょ？ でもそのニコニコは、偽物なのよ。だってそうでしょ？」

そう問われ、私は小さくうなずく。確かにそうだ。がんばらなきゃならない時点で、その「楽しい」気持ちは本物ではない。

「でもね」と夕美ちゃんは続ける。「感情を揺らすなって、それって、ブランコに乗ってもいいけど危ないから漕ぐなって言われているようなもんじゃない？ それじゃ、意味なくない？ さっき、最初に倒れたとき、朝子ちゃんと話してて、なんだかすごく楽しかったの。ああ、楽しいなあって思って、気がついたら倒れてた」

笑顔^{えが}を向けられて、なぜだか泣きそうになった。やっとの事で、一つ小さくうなずく。相手もうなずき返し、

「私ね、すぐに寝ちゃったり、倒れたりっていう症状自体は高校生のころからあって、病名の診断^{しんだん}がついたのは大学入ってからなんだけど、それからずっと、心を揺らさないように頑張ってきたの。でもね、この寮に入って朝子ちゃんと同室になって、私、心が揺れまくりだよ」

「何それ、超危ないじゃん。私のせい？」

「そ、朝子ちゃんのせい。だってすごく楽しかったり、突然^{とつぜん}、さっきみたいなすごく哀しい気持ちになったり、ほんと、揺れまくり。でもね。心が揺れるって、ブランコみたいに楽しいし、気持ちいいし、嬉しいね。だってそれって、生きてるってことじゃない？」

夕美ちゃんはそう締め括り、口を大きく開けて、にかりと笑った。がんばっているんじゃない、本物の笑顔だ。

「——わかった」⑩私は覚悟^{かくご}を決めて、笑い返した。「そういうことなら、責任持って私が夕美ちゃんを守ってあげる。こう見えても、まあまあ力はあるんだから。私にぴったり貼り付いて、好きなだけ、思う存分笑ったりびっくりしたり、怒ったり……」

たまには哀しんだりするがいいわ！」

最後はふんぞり返って言ってやったら、夕美ちゃんはいたずらっ子のような顔をした。

(加納^{かのう}朋子^{ともこ}『カーテンコール!』新潮社より)

問一 空らん A、B、C に入る最もふさわしい言葉を次のア～カの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号をくり返すことはできません。

ア、ぺたんと イ、くるつと ウ、そつと エ、ぽつりと オ、どさつと カ、ごろりと

問二 ~~~~~線 a 「釈然としない」、~~~~~ b 「虚を衝かれて」の意味として最もふさわしいものをそれぞれ次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

a 「釈然としない」

ア、心のわだかまりがなくなる イ、心にわだかまりが残る ウ、意志が強く物事に動じない
エ、意志が弱くあわててしまう

b 「虚を衝かれて」

ア、思ってもいなかったことに驚いて イ、うそを見抜かれてあせって ウ、痛いところを突かれて
エ、本心をかくそうとして

問三 ———線①「こないだのもそうだったの? 超危ないじゃん」とありますが、「こないだの」の直接の原因は何ですか。次の文の空らん^①に当てはまる言葉を文章中から五字以上十字以内で探し、抜き出して答えなさい。

() に驚いたから。

問四 — 線②「倒れる方は最近ずつとなかった」とありますが、「倒れる方」以外の「夕美」の症状を、「こと」につながるように、文章中から五字以上十字以内で探し、抜き出して答えなさい。

() ひと。

問五 空らん X、Yに入る同じ漢字一字を答えなさい。

問六 — 線③「とんでもなかった」とありますが、ここで「私」が気づいた「夕美」との違いはどんなことですか。二人を比べる形で説明しなさい。

問七 空らん Dには — 線④「似て非なるもの」の同義語が入ります。最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア、犬と猿 さる イ、後の祭り ウ、瓜二つ うりふた エ、月とすっぽん オ、いたちごっこ

問八 — 線⑤「そのセリフ」に当てはまる言葉を文章中から十四字で探し、抜き出して答えなさい。

問九 — 線⑥「辛くて哀しくて嫌な記憶」とありますが、この「記憶」に当てはまらないものを次のア～オの中からすべて選び、記号で答えなさい。

ア、祖母のお通夜場で叔母に責められたこと。
イ、祖母が倒れた時に、何もできずに眠ってしまったこと。
ウ、叔母の考えに父親が賛同していたこと。
エ、祖母が目の前で倒れ、亡くなってしまったこと。
オ、母親が自分を祖母に預けて出かけたこと。

問十——線⑦「この二つのこと」とは何ですか。文章中の表現を用い、次の文の空らんにはまる言葉を答えなさい。

おばあちゃんが（

）こと。

おばあちゃんが（

）こと。

問十一——線⑧「ぐうぐう寝てた」とありますが、「私」のこの行為こういを「叔母」はどのようにとらえていますか。次の文の空らんにはまる言葉を文章中から九字で探し、抜き出して答えなさい。

祖母を（

）行為。

問十二——線⑨「刑の執行」とありますが、その内容として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア、大学を卒業できないと決まること。 イ、就職して毎朝起きる生活を始めること。
ウ、病気の治療ちりようと正面から向き合うこと。 エ、所属する場所がなくなってしまうこと。

問十三——線⑩「私は覚悟を決めて、笑い返した」について

- (1) 「覚悟」とありますが、どんな「覚悟」ですか。次の文の空らんにはまる言葉を文章中から七字以内で探し、抜き出して答えなさい。

「私」のせいで「夕美」が（ ）ことになって倒れても守ってあげようという覚悟。

- (2) (1)のような「覚悟」ができたのはなぜですか。※印のセリフを参考にし、このセリフの前と後で「夕美」が倒れることについて「私」のとらえ方がどう変わったかを明らかにして説明しなさい。

国語（一）

受験番号

氏 名

一

1 ユダ
(ねる)

2 アマダ
(れ)

3 サンパイ

4 キンム

5 フ
(る)

6 イバラ

7 ビヨウシン

8 マドム

二

問一

問二

問三

問四

問五
問六

問七

問八

一枚目

二枚目

合計

受験番号			

氏名

問一	A
	B
	C

問一	a
	b

[illegible]

問
四

5

問
五

問六

[illegible]

問九

問十一

問十三 (1)

(2)